



【UNAFEIの今】



かつての UNAFEI と ACPF を知る人は多いが、かなり変遷しており、UNAFEI の今昔を簡単にお伝えします。

1. 国際研修・高官セミナー 期間の長短

国際研修 3か月 → 5週間

高官セミナー 6週間 → 5週間

3か月だと優秀な幹部を送りにくいとか、新しいことをする余力がない。そんな理由で、2003年頃から8週間→6週間→5週間（2015年から）が基本になり、今に至ります。

一方、教官による講義、個人発表、内外専門家の講義、グループワークとそのレポート提出、関係機関訪問、広島・京都研修の要素はそのまま。時間も内容も凝縮されて濃密となります。

これが支部招待行事の週末開催の一因ともなりますが、UNAFEI 教官と専門官も、土日を海外参加者のために浅草ツアー、バーベキューパーティその他イベントを自力で賄っています。なお、以下に述べる研修が増え、職員は伝統的3つを指して「ナンバー研修」と呼ぶ。

2. 汚職防止研修の開始

汚職防止研修は、当初1999年までの2回は法整備支援を担う法総研本所で担当。しかし、現 ACPF 北田幹直理事が UNAFEI 所長時代に UNAFEI で引き取り、2000年から現在まで19年続いています。これも多数の国から参加者が集まる5週間コースです。

3. グッドガバナンスセミナーの開始

海外でのセミナーと言えば、かつてはジョイントセミナー。アジアの参加国と UNAFEI が

共催で毎年1回開催しており、その前年に担当教官が出張し1年かけて準備して開催へ。テーマは犯罪防止と刑事司法の一般的課題。

JICA にとって、それが続きすぎたか、或は効果が疑問視されたか廃止。代わりに法務省予算で2007年からグッドガバナンスセミナー（GG セミナー）を始めた。

アジアの1か国を2年連続の開催地と決め、UNAFEI 教官が訪問して開催する。これまでタイ・フィリピン・日本・マレーシア・インドネシアで開催し、2017年からベトナムで開催。

テーマ決めのほか、会場探し、予約、値段交渉、各国への招待、参加者・海外講師への案内・レポート提出と催促、資料の準備、司会と運営、議事録作成、結果報告発刊、費用の支払・精算など、ロジからサブまで全てを UNAFEI 職員が管理。労力と負担はジョイントセミナーより大。

4. 国別研修・研究会の開催

UNAFEI と言えば、多数国間研修（通称マルチ研修）が主体。国別研修の始まりは中国研修であった。これは1995年に ACPF 主催で始め、翌1996年から JICA 研修に移行した。これも2011年の第17回をもって終了。

その後に保護観察関係でケニア・フィリピンを対象としたが、いずれも終了。現在は、ベトナム・ミャンマーに対して法総研国際協力部（ICD）が法整備支援をしていることもあって、その流れで UNAFEI も国内・海外で研修・研究会・セミナーを開催し、これだけでも合計4～5回開催している。

5. 国際会議への積極関与

かつて UNAFEI の海外出張は少なかった。今や、種々の国際会議にパネリストになるなど、積極的に関与しています。

ニュース あ・ら・かると

【ACPF 新パンフレット作成！】

パンフレットがない・・・

ACPF にかつてパンフレットがあったのを御存知でしょうか。最後のバージョンが相当古くなっていて、使い物にならない。もちろん財政事情もあってパンフを作らないまま、会員勧誘も文章だけの活動紹介ペーパーでお願いしていた状況です。しかも ACPF の HP も更新が殆どない・・・

パンフレットを作ろう！

せめてパンフレットくらいないと・・・という声があり、2017 年 3 月頃から ACPF 本部・事務局に働きかけて、動いてきました。

御存知のとおり、10 月には昭島移転を控えています。ACPF 事務局の住所自体が変わる予定ですので、そのあとに作ればいいのかという声もありました。

しかし、移転してからでは、また数か月かかる。それでは遅くなるので、早々と 4 月から 5 月にかけて作成に取りかかったというわけです。

ビジュアル化へ

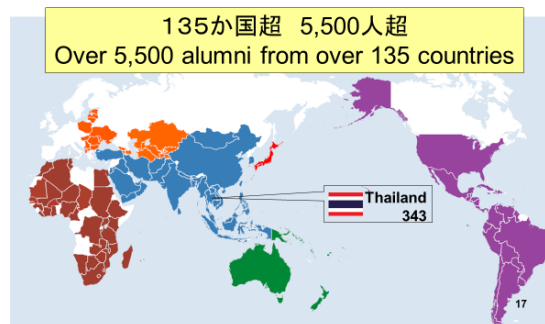
法務検察や司法関係者が作成すると、どうしても文章が多くなりがちになることは否めません。この事務局ニュースも文字だらけですが（汗）。

それは宿命（？）としても、文字・文章だけのパンフでは困ります。少しでも写真を取り入れ、地図を取り入れ、表形式や箇条書きを試みました。そして見開きの場合のレイアウトも考えながら、できる限りビジュアル化する・・・こういう方針で進めたのです。

2017 年 6 月には一応の案も固まり、現在はその印刷のタイミングを見定めているところです。そして、もちろん費用がかかりますが・・・そこは何とかしなければなりません。

【タイとの緊密性】

アジ研卒業生
UNAFEI Alumni



最多参加者を誇るタイ

この図は UNAFEI 研修の参加国を表す。最多参加者はタイの 343 名（2017.3 時点）。タイは 1997 年からの憲法改正で、裁判所が司法省から独立し、保護・矯正を司法省傘下にしましたが、これは UNAFEI で日本の制度を参考にしたものとされています。

視察のメッカ UNAFEI

タイ司法関係者にとって UNAFEI は有名で、毎年のように視察で来訪。大臣クラスから、司法関係機関の職員レベルまで、時には大挙してやって来る。最近の 2013 年 9 月から 2015 年 2 月までに限っても、13 グループ 399 名がアジ研を訪問。2017 年 4 月にタイ司法研究所 (TIJ) メンバーを含む「法の支配と開発研究グループ」(RoLD : Rule of Law and Development) 42 名が訪問。7 月 3~4 日にはタイ国家汚職防止委員会 (NACC) の委員長以下 90 名超が UNAFEI との意見交換のため来訪した。

ACPF も緊密に連携中

2013 年から毎年バンコクでタイ ACPF と TIJ (いずれも同窓生キティポン氏が責任者) と協力して日本企業のためのセミナーを開催中。現在、大阪支部が友好協定を結んでいる。

UNAFEI 来訪の機会を会員企業に案内したところ、タイに関心を持つ企業から参加がありました。タイに限らず、このような機会を可能な限り提供しますので、遠慮なく参加願えればありがたいところです。

お知らせ (予告)

支部招待行事 の 新着情報!

第 167 回国際研修では、恒例の支部招待行事が予定されています。

期日 9月2日(土)～3日(日)

招待して下さる6支部(北から順に)

- 1 亀龍会(福島)
- 2 栃木支部
- 3 横浜支部
- 4 長野支部
- 5 名古屋支部
- 6 大阪支部

今回は、横浜支部が初名乗りして下さいました。海外参加者が例年20名超になるため、6支部もの御協力を得られ、誠に感謝しております。

引率者は次の6名です(五十音順)。

- 田代晶子(保護局、元 UNAFEI 教官)
- 角田 亮(さいたま保護観察所、元 UNAFEI 教官)
- 土居竹美(ACPF 会員、弁護士)
- 山下輝年(ACPF 事務局長、公証人)
- 山本義典(ACPF 調査役)
- 吉田弘之(ACPF 事業部長)

UNAFEI 千田恵介所長の配慮

誠にありがたいことに、2016年から千田所長が自ら、海外参加者を一堂に集め、事前レクチャーをしています。その内容は、支部のある都市・地方の歴史・特徴・見所を、型にはまらず、しかも興味を引く話題に絡めたものです。

毎年、海外参加者は「うちのスタディツアーが一番良かった」と自慢し合うほど、好評の支部招待行事です。

土日での行事で皆様方には御迷惑をおかけいたしますが、その事情・理由は本号冒頭で述べたとおりです。

今年も宜しく願い申し上げます。

第3回 世界保護観察会議

既に「御案内」ビラで御承知かと思いますが、ここでも改めて「お知らせ」致します。

犯罪防止・刑事司法の分野では、矯正の国際会議が古くからあり、アジア矯正局長会議もあります。また、国際検察官協会(IAP)の会議があり、LAWASIAの会議に合わせて最高裁長官会議が開催されています。しかし、保護観察・社会内処遇に特化した国際会議はなかったのです。

そこで社会内処遇に携わる世界の実務家や研究者の有志が、国際会議を2年に1回実施することになったものです。

第1回 英国ロンドン 2013年
第2回 米国ロサンゼルス 2015年

英米とくれば次はアジアです。社会内処遇の歴史が長い日本の東京開催になりました。



この国際会議はUNAFEIが共催しており、ACPFは後援者として名を連ねています。

日時：2017.9.12(火)～9.14(木)
場所：東京品川プリンスホテル
テーマ：「社会内処遇の発展と
コミュニティの役割」
懇親レセプション：9.13(水) 夕刻

希望者は事前に登録料を支払って会議に参加できます。

但し、懇親レセプションは、会議参加者でなくても参加できます(会費制5,000円)。ACPF会員にも新しい出会いが待っています。

公式 URL ↓

<http://www.moi.go.jp/HOGO/WCP3/index.html>



No. 2 UNAFEI 今年 55 周年

国際協力と言えば、今では JICA。3 年前は「国際協力 60 周年」「JICA40 周年」を謳って宣伝していました。その理由は次のとおり。

1954 年 コロンボ・プランに参加(10 月 6 日)

このプランは、途上国への支援計画・枠組みを指し、これに日本も加盟したので、これが起点となる(毎年 10 月 6 日は“国際協力の日”)。

その後の主な出来事を拾うと・・・

1956 年	日本が国連に加盟(12 月 18 日)
1961 年	UNAFEI 設置の協定
1962 年	UNAFEI 国際研修開始
1962 年	OTCA (海外技術協力事業団) 設立←JICA の前身
1963 年	OTCA 研修開始
1970 年	UNAFEI 運営が日本政府に完全移行
1974 年	JICA 誕生

1954 年は国連加盟前の出来事で日本も国際機関から援助を受けていた時代です。犬養法務大臣の有名な指揮権発動があった年です。

UNAFEI 設置協定は国連加盟の“5 年後”という節目で、その翌年から研修開始と記憶すれば忘れない。当時の日本は国連加盟が長年の念願であり、何とか国際貢献したいという意図が推察されます。なお、UNAFEI はパキスタンのラホール市が対立候補となっていました。もしラホールだったら、UNAI (極東に非ず) となり、今は存続していなかったでしょう。

次の要点は、法務省・UNAFEI が JICA よりも前に国際研修を実施したという点です。これを最近の外務省・JICA 職員は知らないの、敢えて彼らの前でプレゼンを借りて教えてあげます。もちろん地域研修所だからアジアが対象国。1974 年に JICA・ODA 予算としたため、対象国が一気に全世界の途上国になるわけです。これを題材に UNAFEI と法務省を宣伝中。

UNAFEI が 55 周年なら、ACPFC は、1982 年設立ですから、今年で 35 周年になります。

第 1 号で触れたように、同じ年に現 UNAFEI 府中庁舎が新築となりました。

もう一つ同じ年に始まったのが、毎年 1 月に開催される「刑事政策公開講演会」です。これは、刑事政策研究会・ACPFC・UNAFEI の三者共催によるものです。講演者は、UNAFEI が客員教授として招聘する海外専門家 2 名です。

1989 年	特定公益増進法人の認可を受ける
1991 年 3 月	国連経済社会理事会 (ECOSOC) から国連 NGO の認定を受ける

そして ACPFC は世界大会を 12 回開催し、数百名規模の参加者を集めていた。

1 東京	1992. 3 月	300 名
2 クアラルンプール	1993. 1 月	400 名
3 マニラ	1994. 3 月	200 名
4 バンコク	1995.11 月	600 名
5 ソウル	1996.10 月	400 名
6 東京・静岡	1997.10 月	350 名
7 ニューデリー	1999.11 月	400 名
8 北京	2000.10 月	750 名
9 東京	2002.10 月	400 名
10 マカオ	2004.11 月	400 名
11 ジャカルタ	2006.11 月	600 名
12 ウランバートル	2008. 8 月	250 名

2000 年 5 月	ECOSOC で総合協議資格を有する NGO へ昇格
2014 年 4 月	公益財団法人の認可を受ける

さて、2020 年には日本で国連犯罪防止・刑事司法のコンGRESSが開催される。国連 NGO・公益財団としての鼎の軽重が問われるのは必至でしょう。そのためには、これからの 2 年半、本部・支部ともども資金面も含めて準備を整えていきたいと思ひます。